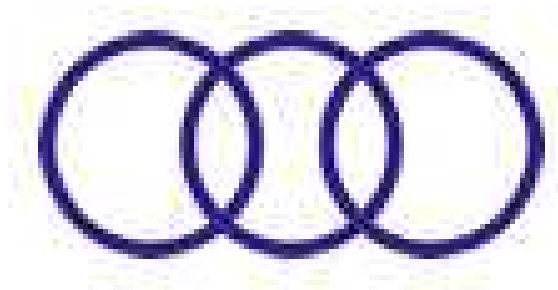


# 2023年度 環境経営レポート

活動期間：2023年5月から2024年4月



三和金属株式会社

第14版 2024年5月20日 作成

# 組織概要

事業所名 三和金属株式会社

代表者氏名 柴山 勝吾

所在地 静岡県静岡市駿河区北丸子2丁目9番12号  
TEL 054-259-3800 FAX 054-259-3826

事業内容 産品鉄屑の回収並びに販売  
産業廃棄物収集運搬・産業廃棄物処分業(中間処理)  
計量証明に関する事業  
全各項に附帯する一切の事業

法人設立年月 昭和 26 年 8 月

資本金 1000 万円

売上高 6 億 7452 万円(2023 年度)

## エコアクション21

統括責任者 代表取締役 柴山 勝吾

環境管理責任者及担当者連絡先 柴山 勝吾 ・ 事務局 伏見 忠之  
TEL 054-259-3800 FAX 054-259-3826

## 事業規模(5月～4月)

活動規模	単位	2021 年度	2022 年度	2023 年度
受託した産廃収集運搬量	t	239.37	297.30	250.34
中間処理量(産業廃棄物)	t	0.69	11.91	2.8
回収金属 処分量	t	10391.97	10852.81	10580.91
従業員	人	10	10	10
床面積	m <sup>2</sup>	1653.76	1653.76	1653.76

※中間処理量は、回収金属+産廃処理量です。

処理料金 金属屑は有価で買取 その他の種類は事前に電話・書類での打合せをさせていただきます。

設備概要 クレーン 2.8t(伊東工業所) ダブリング(北町機械) 3.8t/h 40t 計量機(鎌長衝器)  
スクラップ締 プレス機(影山製作所) 28.8t/日 10t ダンプ 3台 2t トラック 1台  
10t 平ボディートラック 1台 ユニック付4tトラック 1台 4t トラック 2台

処理能力 圧縮施設(廃プラスチック類、金属屑、ガラス屑・コンクリート屑及び陶磁器屑)  
廃プラスチック 28.8t/日(8時間) 金属屑 28.8t/日(8時間)  
ガラス屑・コンクリート屑及び陶磁器屑 28.8t/日(8時間)

切断施設(金属屑)  
廃プラスチック 1.19t/日(8時間) 金属屑 3.84t/日(8時間)  
ガラス屑・コンクリート屑及び陶磁器屑 3.39t/日(8時間)

## 産業廃棄物処理工程図



出荷先：製鋼所・鋳造メーカー

### 許認可

#### 産業廃棄物処分業許可証

中間処分 - 圧縮(廃プラスチック類、金属屑、ガラス屑、コンクリートくず及び陶磁器屑)

切断(廃プラスチック類、金属屑、ガラス屑、コンクリートくず及び陶磁器屑)

産業廃棄物の種類 - 廃プラスチック類、金属屑、ガラス屑・コンクリート屑及び陶磁器屑

静岡市 許可番号 06221013345

許可年月日 平成 28 年 6 月 18 日

許可有効年月日

令和 8 年 6 月 17 日

#### 産業廃棄物収集運搬業許可証

産業廃棄物の種類 - 廃プラスチック類、金属屑、ガラス屑・コンクリート屑及び陶磁器屑、木屑

静岡県 許可番号 02201013345

許可年月日

令和 2 年 4 月 10 日

許可有効年月日

令和 7 年 4 月 9 日

### 加盟団体

日本鉄リサイクル工業会

豊通会

静岡県計量証明協会

静岡県中部鉄源会

静岡市再生資源組合

静岡産廃協会

静岡機械金属団地組合

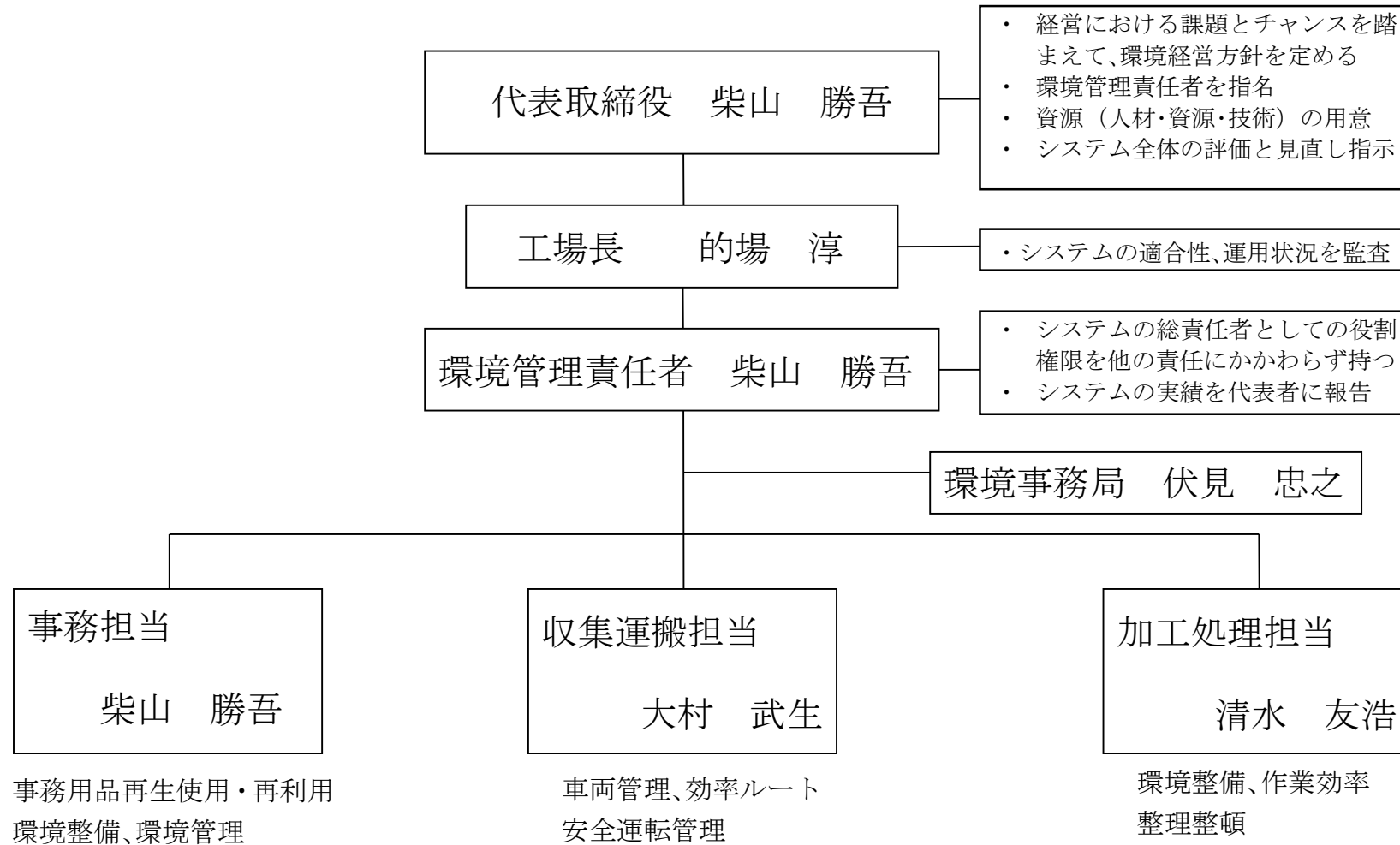
古物商 第 1753 号

金属屑商 第 232 号

各会員

# 三和金属株式会社 環境経営システム 実施体制

2024年5月15日現在 (2019年6月1日～)



# 環境経営方針

## 環境経営理念

『ムダのない地球のためを考えます。』

地球環境問題がとりざたされている中、私たちは中間処理・収集運搬業者として、限りある資源を有効活用し、適切な処理を行い環境の調和を図り、地域と地球の環境保全活動に積極的に取り組んでまいります。

## 基本方針

当社は、環境理念に基づいた環境経営システムを構築し、環境負荷を軽減するとともに、環境に配慮した活動・経営に取り組みます。そのために、次項を実行することによって継続的な改善と汚染の予防に努めます。

1. 常に資源、廃棄物の排出・エネルギー消費状況を把握して、環境への負荷の継続的軽減を積極的に取り組みます。
2. 廃棄物中間処理業者として、3R(Reduce・Reuse・Recycle)を意識し、無駄のない活動を心がけてまいります。
3. 地域社会の生活環境保全に取組み、分別等による有害物の排出の未然防止、地域清掃活動等による社会貢献を行い信頼される企業を目指します。
4. 全員参加による環境保全活動・経営を実施します。含
5. 環境の法規、条例および、その他の規制事項を遵守します。
6. グリーン購入を行います。
7. 作業効率向上を図り、改善と改良を行ってまいります。

当社は、環境経営方針を含めて記述した環境経営レポートを当社においての備え付けと地域や関係する利害関係者の人々からの要求に応じた配布によって公表し、社内外への情報提供を行うことによって積極的な環境コミュニケーションに取り組みます。

改定 令和 2 年 5 月 1 日

制定 平成 20 年 8 月 1 日

三和金属株式会社

代表取締役 柴山 勝吾

中期環境経営目標 ※2022 年度基準 (2023 年～2025 年)

	環境目標	2023 年度末	2024 年度末	2025 年度末
I 二酸化炭素排出量削減	① 電力使用料の削減	目標 1%削減 数値 72964kWh	目標 2%削減 数値 72227kWh	目標 3%削減 数値 71490kWh
	② 軽油使用量の削減	目標 1%削減 数値 49196 ㍓	目標 2%削減 数値 48699 ㍓	目標 3%削減 数値 48202 ㍓
	③ ガソリン使用量の削減	目標 1%削減 数値 1986 ㍓	目標 2%削減 数値 1966 ㍓	目標 3%削減 数値 1946 ㍓
	④ LPG 使用量の削減	目標 1%削減 数値 442.6kg	目標 2%削減 数値 438.2kg	目標 3%削減 数値 433.7kg
	⑤ CO2 排出量 <sup>※</sup> の削減	目標 1%削減 166287 kg_CO2	目標 2%削減 164608 kg_CO2	目標 3%削減 162928 kg_CO2
II 廃棄物削減	① 排出量の削減	目標 1%削減 数値 29731 kg	目標 2%削減 数値 29,430 kg	目標 3%削減 数値 29,130 kg
	② 廃棄物埋立量の削減	目標 1%削減 数値 10,761 kg	目標 2%削減 数値 10,653 kg	目標 3%削減 数値 10,544 kg
III 水	① 水使用量の削減	目標 2016 年度 数値 158 m <sup>3</sup>	目標 2016 年度 数値 158 m <sup>3</sup>	目標 2016 年度 数値 158 m <sup>3</sup>
IV グリーン	① グリーン購入の増加 ※2015 年度の実績を基準	目標 1 品増加 数値 19 品	目標 2 品増加 数値 20 品	目標 3 品増加 数値 21 品
V 事故	① 環境事故0の維持	目標 0 件	目標 0 件	目標 0 件

※ 電力のCO2 排出係数は中部電力株式会社 令和3年度(2021年)の0.449(kg-CO2/kWh)を使用



## 2023 年度 環境経営目標

### I 二酸化炭素排出量の削減

項目	単位	2022 年度実績	目標(2022 年度比)	2023 年度 目標値
① 電力使用量の削減	kWh	73,701	1%削減	72,964
② 軽油使用量の削減	ℓ	49,693	1%削減	49,196
③ ガソリン使用量の削減	ℓ	2,006	1%削減	1,986
④ LPG使用量の削減	kg	447.12	1%削減	442.6
⑤ CO2排出量の削減	kg-CO2	167,967	1%削減	166,287

### II 廃棄物の削減

項目	単位	2022 年度実績	目標(2022 年度比)	2023 年度 目標値
① 排出量の削減	kg	30,031	1%削減	29,731
② 埋立量の削減	kg	10,870	1%削減	10,761

### III 水道使用量の削減

項目	単位	2022 年度実績	目標(11年間平均 222 m <sup>3</sup> )	2023 年度 目標値
① 使用量の削減	m <sup>3</sup>	344	2016 年度 現状維持	158

### IV グリーン購入の推進

項目	単位	2022 年度実績	目標(2022 年度比)	2023 年度 目標値
① グリーン購入	品	18 品	1 品増加	19 品

### V 環境事故0件の維持

# 2021年 環境経営計画

## I 二酸化炭素排出量の削減

### ① 電力使用量の削減

- ・ プレス作業の効率化
- ・ 天井クレーンの下車時 電源 OFF
- ・ ダブリングの不使用時 電源 OFF
- ・ 効率の良い作業を考える
- ・ エアコンを無駄に使用しない
- ・ 使用していない所(不在時)の照明の消灯
- ・ 無駄な空回転をなくす

担当者名 清水 友浩

日常運転

日常運転

日常運転

段取・時間管理短縮 常時

冷房 6月～9月

常時

日常運転

### ② 軽油使用量の削減

- ・ オイルエレメント、エアーエレメントの適時交換
- ・ フォークリフトの下車時 エンジンの停止
- ・ ユンボの下車時 エンジンの停止
- ・ トラック下車時 エンジンの停止
- ・ 効率の良い配車ルートを考える
- ・ 不必要なアイドリングストップ
- ・ 無駄な空運転をなくす
- ・ エアコン省エネ温度設定

担当者名 大村 武生

適時実行

日常運転

日常運転

日常運転

常時

日常運転

常時

常時

### ③ ガソリン使用量の削減

- ・ 不必要なアイドリングストップ
- ・ 省エネ運転を心がける

日常運転

### ④ LPG 使用量の削減

- ・ 効率の良い作業を考える

冬季 ストーブ 12月～3月

## II 廃棄物排出の削減

- |                                  |      |       |
|----------------------------------|------|-------|
| ① 排出量の削減                         | 担当者名 | 柴山 勝吾 |
| ・ リサイクルの可能な物の分別とリサイクル化           |      | 常時    |
| ・ コピー用紙の両面使用                     |      | 常時    |
| ② 埋立量の削減                         | 担当者名 | 柴山 勝吾 |
| ・ 埋立廃棄物の中から再利用可能な木屑及び廃プラ等を分別回収する |      | 常時    |

## III 水使用の削減

- |              |  |    |
|--------------|--|----|
| ① 水使用量の削減    |  |    |
| ・ 手洗い場に節水の表示 |  | 常時 |

## IV グリーン購入、その他 (常時)

- ・ コピー紙使用の削減 ・ 廃棄する紙の削減 ・ 再生可能な紙は、リサイクル・再利用する
- ・ 事務用品を選択する際、エコマーク製品等の環境配慮製品を購入する
- ・ 振動、騒音の低減に努める ・ 5S 活動(整理・整頓・指導・清掃・指示)の推進
- ・ 苦情受付 ・ 環境法規の遵守 ・ 効率的作業を常に心がける
- ・ 地域清掃活動

## V 事故

- |                |
|----------------|
| ① 環境事故0の維持     |
| ・ 作業手順書の教育、確認  |
| ・ コミュニケーションの強化 |
| ・ 緊急時訓練の実施     |

## 2023 年度 環境経営状況 目標値対比

### I 二酸化炭素排出量の削減

項目	単位	2023 年度目標値	2023 年度実績	結果
① 電力使用量の削減	kwh	72,964	69,091	5.3% DOWN
② 軽油使用量の削減	リットル	49,196	50,734	3.1% UP
③ ガソリン使用量の削減	リットル	1,986	1,986	目標通り
④ LPG使用量の削減	kg	442.6	400.97	9.4% DOWN
⑤CO2排出量の削減	kg-CO2	166,287	168,264	1.2% UP

### II 廃棄物の削減

項目	単位	2023 年度目標値	2023 年度実績	結果
① 排出量の削減	kg	29,731	13,668	55% DOWN
② 埋立量の削減	kg	10,761	6,031	44% DOWN

### III 水道使用量の削減

項目	単位	2023 年度目標値	2023 年度実績	結果
① 水道使用量の削減	m <sup>3</sup>	158	219	38.6% UP

### IV グリーン購入の増加

項目	単位	2023 年度目標値	2023 年度実績	結果
① グリーン購入の増加	品	19 品	19 品	19 品

### V 環境事故0件の維持

## 2023 年度 環境経営計画の取組結果とその評価、次年度の取組内容

※定数量とは定数量 100t 当りの使用量・排出量をいう

	評価	取組結果(評価) <small>実数対比及び定数量対比の総合評価</small>	次年度取組内容
電力	◎	目標値対比 5.3%のDOWNになりました。定数量に対する数値は 3.9%DOWN。回収金属量が 2.5%DOWN。目標値の数値も定数量に対する数値も使用量を減らすことが出来ました。ダブルリングの購入効果及び加工不必要な荷が多かったのではないかと思います。	新年度に入り、計量器をアナログからデジタルに変更。新しい機械の影響を続けて観察したい。 加工機械を大切に使用する事で作業効率が下がる事の無いように努めていきたい。
軽油	△	目標値対比 3.1%UP になりました。回収量が 2.5%DOWN した中、数値も目標値より 3.1%UP、原単位での数値も 4.7%UP。回収量が減る中、小まめな動きをしていた影響と考えます。ダンプを1台変えてからの通年の数値。今後も見据えていきたい。	全ての車の燃費把握にも努めていきたいと思います。 車の交換を順次行っていきたい。
ガソリン	◎	目標値と同じ数値。回収金属との兼合いは少ない。平日休日を問わない動きが増加。価格交渉・下見・立ち合い等のお客様との打合せの動きも多くなつた。	今後もエコドライブを徹底し、ガソリン消費量の軽減を目指します。
LPG	◎	目標値 9.4%DOWN 目標値対比 8%DOWN。LPG 使用の作業が無い為、冬場の使用の数値。定数量は問題ではない。	使用状況を意識し、無駄な使用を避け、消費量軽減を心がけます。 冬場の室温調整を意識していきます。
CO2 総排出量	△	目標値対比で 1.2%UP、定数量における CO2 排出量も 2.8%UP。比率の高い軽油の向上による影響。	CO2 の減少は電力及び軽油の使用量によるものとする。回収金属の量を増やす前提で CO2 削減に努めてまいります。
産廃	◎	前年度対比 55%DOWN、という結果になりました。前年度は台風被害の影響で排出量が増大。その分を踏まえても数値的には少ないものになっています。	廃掃法・バーゼル法が改正され、尚中国への輸出の規制が厳しくなり、更なる分別作業が強いられる事による、排出量の増加は考慮しなければならない。処理方法・処理先の開拓
水	○	使用量は基準年に対して 38.6%UP。 昨年は水漏れが原因での数量 UP。	限界量になっているようになってきている為、目標値は固定している。若干の UP ではありましたが、このままの使用量を維持していきたい。高圧洗浄機の購入。水道の口をちゃんと締める。
グリーン購入	×	購入量の把握ができていませんでした。	まだ集計作業に不慣れで、不明瞭な点が多い事を克服したい。
事故	○	0件	今後も事故の無い様に努力していきます。
苦情	○	クレーム等の連絡(0件)	地域の方々とのつながりを大切に、今後も問題の無いよう取り組んでまいります。
その他	○	地域清掃活動を毎日実施。工場内LED化。新機械の購入。ダンプ交換。5月に計量器を交換。アナログ→デジタルに	清掃活動範囲の拡張。高圧洗浄機購入。

## 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無

### 1、環境関連法規等の遵守状況

当事業所に適用される環境関連法規の遵守状況を確認した結果、違反はありませんでした。(遵守点検 2024年5月19日)

法規・条例・規制	要求事項	適用	遵守状況
廃棄物処理法	廃棄物処理業・収集運搬業の届出と更新 廃棄物保管基準の遵守、悪臭・飛散防止 外部処理委託は、運搬と処理を区別して契約を結ぶ 処理先の現地確認を行う（県条例） マニフェストの運用・管理・保管・電子マニフェスト使用 ① A・B1・B2・C2・D・E票 ② B1・C2 ③ C1 不法投棄の禁止	産業廃棄物収集運搬許可証(市・県)【5年毎の更新】・実績報告 置場の点検 委託契約書の確認 年に1度以上の確認(3月5日) マニフェストの管理 ① 搬出事業者 ② 収集運搬事業者 ③ 中間処理業者 マニフェストの管理	○
静岡市産業廃棄物の適正な処理に関する条例	① 産業廃棄物管理責任者の設置 ② 産業廃棄物処理の委託先の現地確認とその記録の保存	① 柴山勝吾 ② 毎年1回以上処理の状況を確認し、5年間以上保存	○
計量法	法定点検を行う	2年に一度 計器の公正点検	○
自動車リサイクル法	処理業者に委託	6台の廃棄時適用	○
家電リサイクル法	テレビ・洗濯機・冷蔵庫・エアコンの廃棄	指定所への廃棄	○
グリーン購入法		責務	○
騒音規制法	圧縮機2台 設備点検、室外機	金属団地組合から自治団体へ届出	○
振動規制法	圧縮機2台 設備点検	金属団地組合から自治団体へ届出	○
フロン排出抑制法	冷凍空調機器:全ての第一種特定機器が対象 ① 自身での『簡易点検(3ヶ月に1回以上)』実施	点検実施結果を残します ① 企業・法人の管理者が目視・点検確認し記録。	○

### 2、違反、訴訟等の有無

過去3年間に渡り、関係機関からの指摘、利害関係者からの訴訟等はありませんでした。

## 代表者による全体評価と見直し・指示の結果

今期の5月、コロナが第五類に変更されました。2022年2月からのロシア・ウクライナにおける戦闘などは継続。2023年10月イスラエルとハマスの戦争。ダイハツ工業の不正問題、豊田織機の不正問題(1月)、リコール等が続き、製造工程の作業が止まる状況が続きました。その影響もありスクラップの発生(仕入)が厳しい(少ない)ものになりました。対して納入先の鋳造工場も生産稼働率が悪く、需給バランスが取れた一年でした。

発生が少ない状況ですと、どうしても細かな動きになってしまい定数量に対しての軽油の使用量が上昇してしまいます。そんな中でも、効率の良い動きを考えて段取りを組んでいきたいと思えます。そして、車や機械等を大事に管理していく事が、社会的にも環境の面でも、そして効率の面でも必須であると思えます。日々の設備管理をしっかり行っていきたいと思えます。

今後も回収金属の増量を前提に、数値向上を目標にしていきます。

令和6年5月20日

三和金属株式会社

代表取締役 柴山勝吾